

両町長ごあいさつ

菊陽町と屋久島町は、屋久杉が取り持つ縁で、平成6年に旧屋久町と本町で姉妹都市盟約を締結しました。以来、両町は、さまざまな分野において、子どもから高齢者まで多くの両町民が交流を重ね、絆を深めてきました。



さて、本町は、世界的半導体企業の進出により大きな変革期にあります。全国からも注目される町となり、世界自然遺産がある屋久島町に少し近づけることができたと考えています。

現在、本町が取り組んでいる新たな都市基盤整備は、町民の憩いの場やにぎわいの拠点であり、「屋久島の森」がある菊陽杉並木公園を中心に進めることとしています。そしてまた、農業、健康・福祉、教育、地域活性化などさまざまな取り組みの中で、さらなる屋久島町との交流の深化を図っていきたく考えています。

この友好交流が、両町の発展のみならず、日本全体のPR、そして元気をリードできるよう、引き続き一緒になって取り組んでいけることを願っています。

最後に、菊陽町と屋久島町が益々発展しますことをご祈念申し上げるとともに、両町の皆さまのご健勝とご活躍、さらに、菊陽町と屋久島町の友情の絆が永遠に続くことを誓い、あいさつとさせていただきます。

令和7年1月18日

菊陽町長 吉本 孝寿

菊陽町との姉妹都市盟約30周年という素晴らしい節目を迎え、心から祝意を表します。

30年前の出会い以来、両町は行政だけの交流ではなく、子ども会や女性団体をはじめとする町民の交流や、菊陽町のすぎなみフェスタ、屋久島町の産業祭などのお祭りイベントでの出店など、さまざまな形や分野で活発な交流を積み重ねてきました。

屋久島は、世界自然遺産に登録された稀有な自然と、そこに暮らす人々の暮らしが調和した島です。菊陽町は、歴史と文化が息づく美しい町であるとともに、多くの企業が立地する活力ある町です。両町は、それぞれの特色を生かし、互いの文化や歴史を深く理解し、友好な関係を築いてきました。そして、災害時には互いに支援し合うなど、まさに「一蓮托生」の精神で、地域の活性化に努めてまいりました。

30周年を迎え、これまでの友好関係を礎とし、さらなる発展のために屋久杉が育つがごとく、悠久の時を共に歩んでいきたいと考えています。

最後に、菊陽町の皆さま、そして、30年間の姉妹都市交流に尽力された皆さまに心から感謝申し上げます。屋久島町と菊陽町の友情の絆を永遠に結ぶことを約束させていただきます。

令和7年1月18日

屋久島町長 荒木 耕治



菊陽町×屋久島町 姉妹都市盟約締結30周年記念

杉がつなく未来

菊陽町と屋久島町が姉妹都市盟約を締結して30周年を迎えました。両町は長い友情の歴史の中で、イベントや町民間の交流により、その絆を深めてきました。加藤清正公が「後の世のため」にもたらしたこの縁が、これからも末永く続いていくよう、歴史の最初の1ページを振り返り、思いをはせてみませんか。

杉がつないだ絆

今からさかのぼること約410年前。加藤清正公は、熊本市と大分市鶴崎を結ぶ「豊後街道」を整備し、敵の侵入防止や熊本城修築などを目的に、20⁺の長さにわたる屋久杉を植えたと言われています。昭和61年、この歴史的遺産を守ろうと、菊陽町と関係者が屋久島から、屋久杉の苗木の取り寄せを依頼したことから、交流が始まりました。翌年には菊陽杉並木公園で植樹式を行い、これ以降、行政視察や両町の農業祭・産業祭への出店、町民同士の交流などを図ってきました。そして、平成6年に両町で調印式および提携式を実施し、姉妹都市盟約記念として彫刻「森の精」を設置。友情のシンボルとして、今もなお、多くの人に愛されています。その後も、菊陽町のすぎなみフェスタや屋久島町の産業祭などのイベントのほか、子ども会、女性団体の交流など、その絆を今まで紡いできました。今年度は姉妹都市盟約締結から30周年に当たる年です。今回は、両町のこれまでのあゆみや交流を振り返ります。

菊陽町×屋久島町

交流年表

(一部抜粋)

- 昭和61年 慶長9年(1604年)頃、加藤清正公が屋久杉を植えたといわれる豊後街道菊陽杉並木の整備に必要な補植用の屋久杉を調達するため、建設省熊本工事事務所、熊本県、菊陽町の関係者5人が屋久町を訪問し、幼杉の譲り渡しを依頼
- 昭和62年 豊後街道菊陽杉並木第1回植樹式
- 昭和63年 第1回菊陽町農業祭に屋久町から参加(特産品販売、両町長記念植樹など)
- 平成3年 屋久町産業祭に菊陽町から参加
- 平成5年 屋久町から菊陽町子ども会との交流のため菊陽町を訪問
- 平成6年 姉妹都市盟約調印の日程、事業計画などについて基本合意。姉妹都市盟約承諾書の取り交わし
- 平成12年 前年9月の台風18号で倒れた杉並木の補植用に苗木150本を屋久町から譲り受け、その記念に菊陽杉並木公園の一角に「屋久島の森」を設置
- 平成16年 姉妹都市盟約10周年を記念し、縄文杉のクローン苗の提供を受け、屋久島の森へ植樹
- 平成19年 屋久町と上屋久町が合併し、屋久島町となる
- 平成20年 屋久島町と姉妹都市盟約締結
- 平成26年 姉妹都市盟約20周年を記念し、屋久島地杉をはじめ、屋久島に自生する樹木を屋久島の森に植樹。併せてパネル設置。また、春めき桜を屋久島町「健康の森公園」へ植樹
- 令和4年 植樹式を開催し、「宇宙ヤクスギ」を屋久島の森に、屋久島地杉を豊後街道菊陽杉並木に植樹



菊陽町

花見客が集まる菊陽杉並木公園ふれあい広場



屋久島町

屋久島地杉を活用した役場本庁舎

▶位置・地勢

菊陽町は、県庁所在地である政令指定都市の熊本市の北東部に位置し、雄大な阿蘇に源を発した白川中流域の開けた平坦地にあります。町域は、東西11.8km、南北9.4km、総面積は37.46km²となっています。

町の中央部を国道57号とJR豊肥本線が東西に通じており、JR駅として、三里木駅、原水駅、光の森駅の3駅があります。南部には阿蘇くまもと空港があり、国内外に航空機が飛び立っています。北東部にあるセミコンテクノパークには、半導体関連企業や熊本県立技術短期大学校などが立地しており、先端技術が集約しています。

地形は、阿蘇のカルデラから西へ貫流する白川の形成による河岸段丘からなり、中央部は堆積地性低地で、周辺には熊本の地下水を育む水田地帯が広がっています。これと平行して南部と北部に標高40~100mの緩やかなローム層畑作台地が、さらに最南部と最北部には100~200mのやや高いローム層森林台地が広がっています。

▶人口 (令和7年1月31日時点)

43,778人

▶あゆみ

昭和30年、純農村地帯である3村が合併し菊陽村が誕生。その後、農業の転換や工業化などが進み、昭和44年、町制施行により菊陽町となりました。さらに、農地の保全を図りながら、幹線道路の整備や土地区画整理、下水道などの都市基盤整備に取り組んだことで、現在の豊かな自然や田園環境を残した生活都市となっています。

現在、世界的半導体企業が町へ進出したことなどを契機に、JR新駅の設置や菊陽杉並木公園拡張整備、新たな土地区画整理など、未来を見据えた魅力あるまちづくりを進めています。

▶位置・地勢

屋久島町は、鹿児島市の南方約135km、鹿児島県本土の南方約60kmの海上にあり、屋久島とその西北西約12kmにある口永良部島の2島からなっています。総面積は、540.98km²で、うち93%を占める屋久島は、岩質のほとんどが花崗岩からなる東西28km、南北27km、周囲132kmの円形の島です。九州最高峰の宮之浦岳(1,936m)を筆頭に、標高1,000m以上の山が45座以上あり、多くを山岳部で占めていることから「洋上アルプス」と呼ばれています。また、島全体が険しい山々から形成された急峻な山岳島で、140余りの中小河川が島の中央部から放射状に流れ、いずれも急勾配で河床を深く浸食し、随所に美しい滝を形成しています。

口永良部島は、周囲50km、ひょうたん型をしており、南東中央部には平成27年に爆発的噴火を起こした新岳が今もなお噴煙を上げています。丘陵地帯は、緑に覆われて自然の牧地をなし、いたるところから湧き出す良質の温泉とあいまって、「緑の火山島」とも呼ばれています。

▶人口 (令和7年1月31日時点)

11,312人

▶あゆみ

屋久島町は、平成19年10月1日に上屋久町と屋久町が合併して誕生した町です。

平成5年には、樹齢数千年の屋久杉をはじめとする特殊な森林植生が作り出す景観や、亜熱帯から冷温帯に及ぶ植生の垂直分布など、屋久島の貴重な自然環境・自然資源が世界的な評価を受け、我が国で最初の世界自然遺産に登録されました。

また、令和元年5月には、町内産材の「屋久島地杉」を活用した新庁舎が完成し、現在は町のシンボルとなっています。

▶菊陽町のココがすごい！3選



菊陽にんじん

土壌や気候、豊富な水資源がにんじん栽培に適している菊陽町。西日本でもトップクラスの生産量を誇り、国の指定産地に認定されています。甘さ・みずみずしさが特徴です。



歴史・文化が残るまち

菊陽町に残る多くの歴史的遺産。その中でも、農業用水路である「馬場桶井手の鼻ぐり」は熊本県指定史跡に、これを含む白川流域のかんがい用水群は世界かんがい施設遺産に登録されています。



都市部と農村部の融合

交通アクセスや商業施設などが充実し住環境が整っている一方で、田園風景や自然など、純農村地帯であった菊陽町の田舎らしい風景も残っており、都市部と農村部がバランス良く融合しています。

▶屋久島町のココがすごい！3選



ユネスコ三冠のまち

屋久島町は、日本で初めて世界自然遺産に登録されました。また、ラムサール条約、ユネスコエコパークに登録されており、日本で唯一のユネスコ三冠のまちとなりました。



ゼロカーボンアイランド宣言

島内の電力は、約99%を豊富な水資源を活用した水力発電により賄っています。「脱炭素に一番近い島」として、令和5年12月に「屋久島町ゼロカーボンアイランド宣言」を行いました。



九州最高峰 宮之浦岳

屋久島は、標高2,000m級の山々が連なっており、「洋上アルプス」とも言われ、島の中央部に位置するのが九州最高峰の宮之浦岳(1,936m)です。宮之浦岳は、日本百名山の最南端の山です。

春めき桜



姉妹都市盟約20周年を記念し、屋久島町健康の森公園の一角に植樹しました。早咲きの美しい桜は、町民に春の訪れを告げてくれます。

森の精



姉妹都市盟約記念として、平成6年、屋久島ふれあい広場と菊陽町役場に設置。2つの町の間を行き交うようなその姿は、両町の友情のシンボルとなっています。

屋久島の森



菊陽杉並木公園の一角に設置されたこの場所には、屋久島自生の樹木が植えられています。公園内には大きな「屋久杉根株」も展示しています。

菊陽中部小学校



菊陽中部小学校の多目的室には、屋久島町寄贈の屋久島地杉を使っています。平成25年に完成したこの校舎は、木のぬくもりと香りを感じることができます。

ふるさとから新たな魅力に出会う

両町へ直接足を運ぶことが難しくても、それぞれが住む町の中で、新たな魅力に出会い、感じる
ことができます。あなたの住む町から、相手の町へ、思いをさせてみませんか。

続く交流の輪

両町の交流が始まり、はや30年。その間、両町の子ども会や女性団体、各団体など多くの方が心を通わせ、親睦を深めてきました。

▶両町の味を堪能



両町開催のイベントで、特産品を販売してきました。屋久島町では、ふるさと産業祭で菊陽町の新鮮な野菜などを販売。菊陽町では、すぎなみフェスタで屋久島町産の加工品や焼酎などの特産品を販売し、両町の魅力とつながりを直接感じる機会となっています。

1月18日～19日には、姉妹都市盟約締結30周年記念式典に合わせ、屋久島町のまごころ市ぼんたん館で菊陽町農産物フェアを開催。菊陽町産の農産物を販売したところ、開店から約2時間30分で完売するほど大盛況でした。

▶菊陽町に新たな杉の息吹

令和4年、菊陽杉並木公園の一角に設置している「屋久島の森」に、スペースシャトルで宇宙を旅した「宇宙ヤクスギ」2本を記念植樹しました。また、豊後街道（JR豊肥本線沿線）には、屋久島地杉苗を補植。

菊陽町に新たな屋久杉の生命が生まれ、育まれています。

▶町民の交流



屋久島町と菊陽町の子ども会や女性団体は、相互に訪問し交流してきました。子どもたちは自然体験活動や学習活動を、女性団体は活動報告会や施設見学などを通して、両町の親睦と友好の絆を深めました。

今年度は菊陽町子ども会が6年ぶりに屋久島町を訪問。屋久島町女性団体は菊陽町を訪れ、町施設や工場の見学、意見交換などを行いました。



屋久島町民はこちらから
(菊陽町ふるさと納税サイト)

▶ふるさと納税で魅力を満喫

ふるさと納税で両町の特産品をゲットして、両町を身近に感じてみませんか。各QRコードから、ふるさと納税の専用サイトをご確認ください。



菊陽町民はこちらから
(屋久島町ふるさと納税サイト)



▶記念式典を菊陽町で開催

1月18日、菊陽町図書館ホールで姉妹都市盟約締結30周年記念式典を開催しました。当日は、両町の関係者や住民など約340人が参加。

開会に先立ち、熊本県指定無形民俗文化財である馬場楠の獅子舞と、菊陽町が令和5年に友好交流協定を締結した台湾の宝山郷が属する新竹県の獅子舞団体によるオープニングアトラクションが披露されました。

また、荒木屋久島町長、吉本菊陽町長、熊本県出身俳優の宮崎美子さん、同じく熊本県出身タレントの山内要さん、菊陽町出身タレントのMEGさん、屋久島町出身アナウンサーの寺田菜々海さんによるトークショーを開催。両町に関するクイズや、登壇者がこれまで来町した時の経験などが



トークショーでは会場が笑顔に包まれた

話題にあがり、両町の魅力を再確認し、これからさらに交流を深めるためのきっかけとなる式典になりました。